3.久米島町をとりまく社会動向及び久米島町の現状

1）久米島町の位置

久米島は、沖縄本島那覇市の西方約100kmの東シナ海に位置し、
久米島本島及び奥武島・オーハ島の有人離島、鳥島・硫黄鳥島などの
無人島から構成されています。
東洋一美しいとも言われる「ハテの浜」や、ラムサール条約に登録された渓流、
県指定天然記念物の亀甲型の「畳石」が広がる奥武島など、
海岸域から山地まで広がるその自然の豊かさから、希少野生動植物の生息地域と
なっており、島のほぼ全域が県立自然公園に指定されています。

2）交通手段

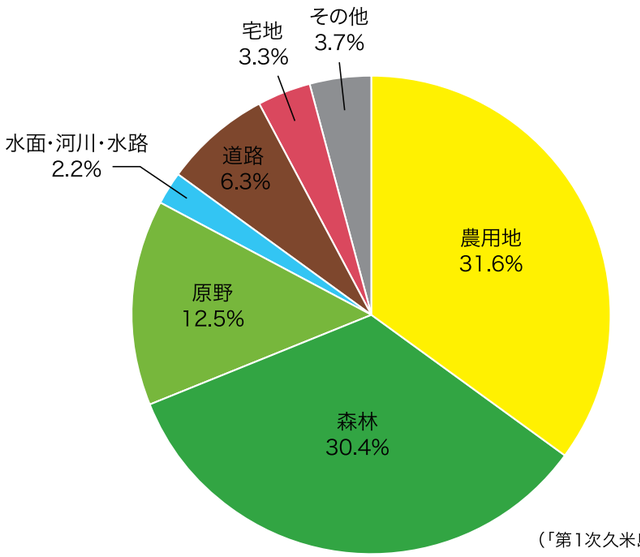
沖縄本島からの交通手段としては、那覇泊港からの
フェリー（1日2便・所要時間3時間20分［渡名喜経由］／
2時間50分［直行］）と、那覇空港からの航空便
（JTA1日1便、RAC6便［2015年9月時点］
所要時間25分～30分）が運行されています。
7月中旬～8月のハイシーズンには東京（羽田空港）からの
直行便も1日1便、運行されています。

3）歴史・文化

琉球王朝が、中国をはじめ、東南アジアや朝鮮、日本と盛んに
貿易していた時代、久米島はその寄港地として栄えました。
中国大陸と沖縄本島の間に位置する離島という特異な
歴史風土に支えられながら多様な文化を先人から受け継いでおり、
「久米島紬」（国指定重要無形文化財）や現存する
沖縄県最古の民家「上江洲家」（国指定重要文化財）など
国指定の文化財も多数存在しています。
また古来、湧き水を利用した稲作が盛んであったことから
米どころの意で「久米島」になったという説もあるほど、
豊かな水に恵まれた島でもあります。

4）土地利用状況

久米島町の総面積は6,350haで、沖縄県内で8番目に大きい自治体となっています。2010年（H22）における町土の地目別面積割合では、農用地が約1/3を占め、森林・原野を合わせた面積は42.9%になります。農用地は主に耕作もしくは養畜のための採草畑として利用され、森林・原野は町民の生活を支える水源地域として、豊かな植生によって地下水の涵養に役立っています。



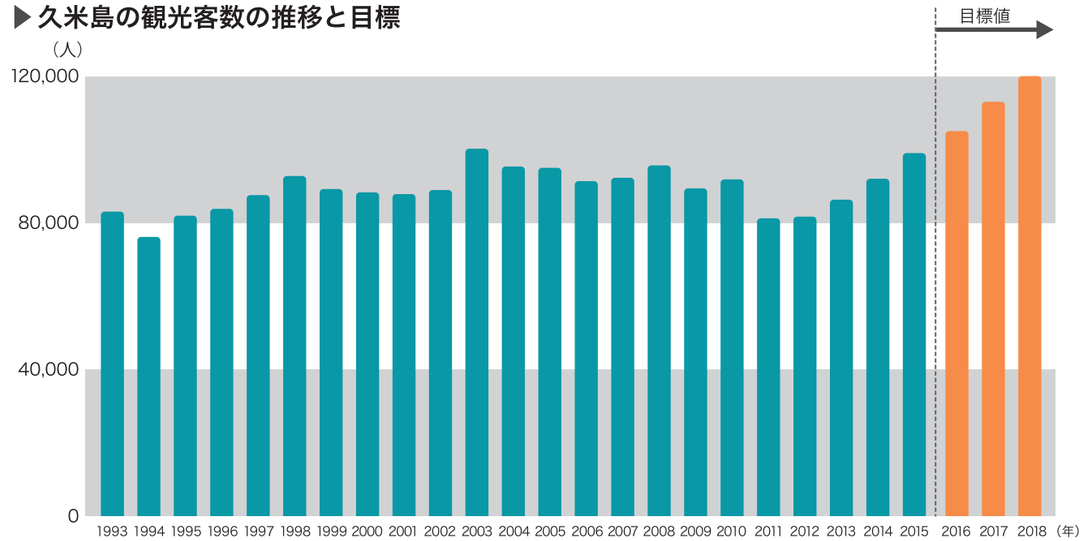
（「第1次久米島町国土利用計画」データより作成）

5）観光入込客数

交流人口を増加させ地域の活力を生み出す観光。
久米島町では2012年（H24）以降、増加傾向にあり、
『観光振興基本計画』で設定された2019年（H31）までに
12万人を目指し、さまざまな観光振興政策が進められている。

沖縄県全体では、2014年（H26）の観光入込客数が705万8,300人となり過去最高を記録しました。さらに、同年に那覇空港新国際線旅客ターミナルの供用など、観光振興に関わる施策が進められており、目標の1,000万人の達成に向けて着々と取り組みが進められています。
一方、久米島の観光入込客数は、2003年（H15）に10万人台の大台を超えましたが、それ以降は横ばいもしくは減少傾向となっていました。
しかし、近年はスポーツ合宿の誘致などの効果もあり、増加の兆しがみえます。2011年（H23）に8万1,212人にまで落ち込んだ後は毎年増加を続けており、2013年（H25）は8万6,298人、2014年（H26）には9万261人と、9万人を達成しました。
2014年（H26）3月発行の『久米島町 観光振興基本計画』では、2019年（H31）までに、観光入込客数12万人を実現することを目標としており、総合計画においても観光分野の取り組みについては観光振興基本計画を主軸とした施策展開を推進していきます。

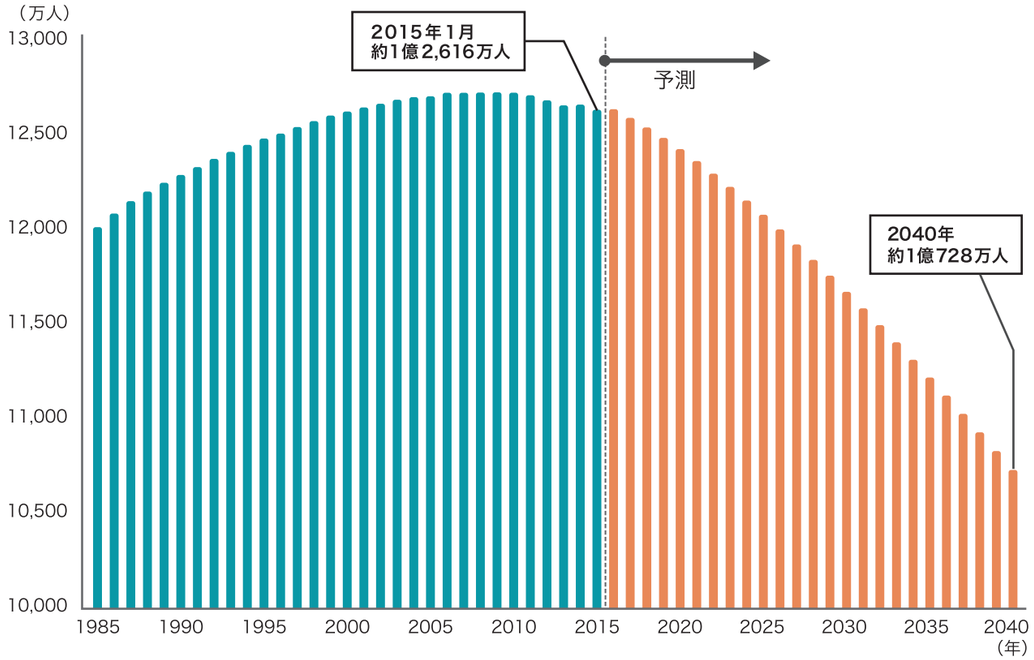
▶久米島の観光客数の推移と目標



（「久米島町観光振興基本計画」–H26年3月発行–より）

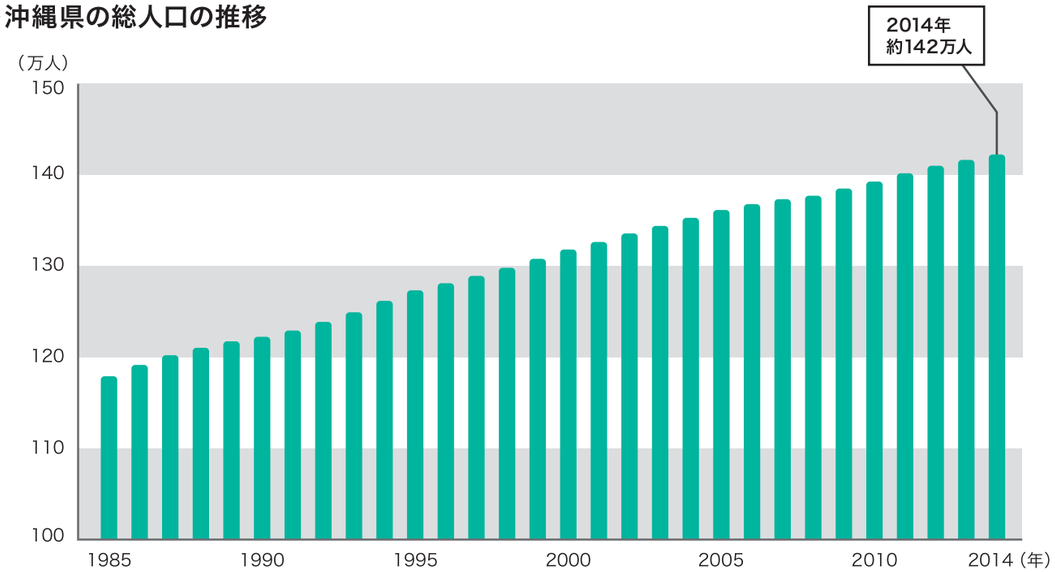
6）人口減少の状況

▶日本の総人口の推移と予測



（実数：総務省1985～2010年「国勢調査」及び「人口推計」/予測：国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」より）

▶沖縄県の総人口の推移



（沖縄県統計資料WEBサイト「推計人口」より）

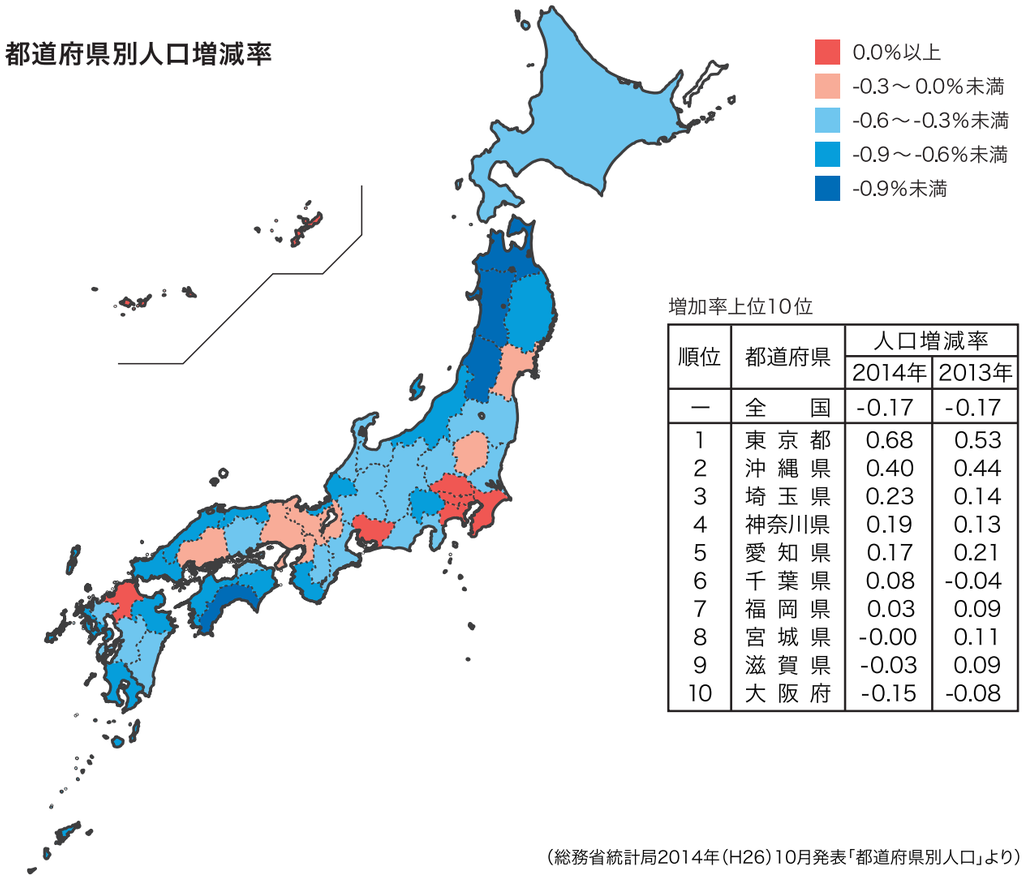
人口増加傾向にある沖縄県において、久米島町は減少傾向にあり、県内人口減少率第5位。高齢化率も県平均を上回っている。

総務省が2015年（H27）7月1日に発表した住民基本台帳に基づく2015年（H27）1月1日時点の人口動態調査によると、国内の日本人の人口は1億2,616万3,576人で、前年比で約27万人減。年間減少幅は調査を始めた1968年（S43）以降で最大。2040年（H52）には1億727万6,000人※まで減少する見込みです。町村の9割で人口が減る一方、東京圏への一極集中がさらに進み、少子化対策と地方創生に向けた取り組みが一層求められています。

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）より

そんな中、各都道府県の前年度比の人口増減率を見ると、40道府県がマイナスとなったのに対し、沖縄は増加率0.40％となっており、人口増となった7都府県のうちトップの東京都（0.68％増）に次いで2位となっています。

▶都道府県別人口増減率



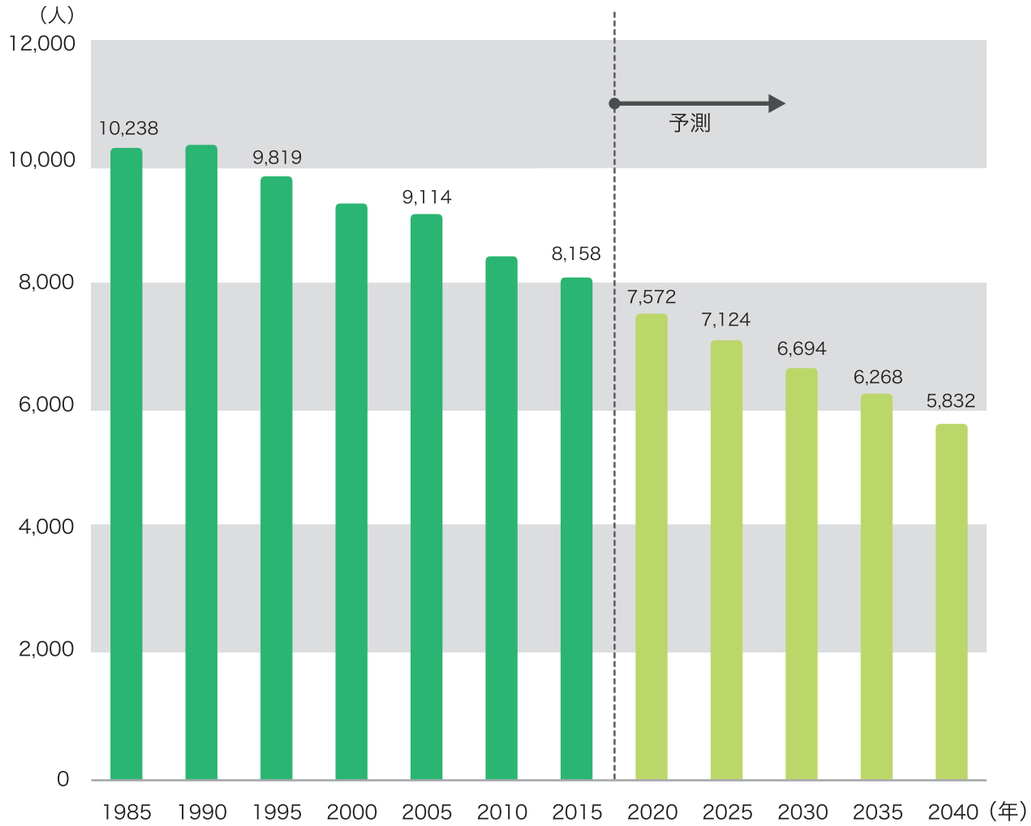
増加率上位10位

順位	都道府県	人口増減率	
		2014年	2013年
―	全　国	-0.17	-0.17
1	東京都	0.68	0.53
2	沖縄県	0.40	0.44
3	埼玉県	0.23	0.14
4	神奈川県	0.19	0.13
5	愛知県	0.17	0.21
6	千葉県	0.08	-0.04
7	福岡県	0.03	0.09
8	宮城県	-0.00	0.11
9	滋賀県	-0.03	0.09
10	大阪府	-0.15	-0.08

（総務省統計局2014年（H26）10月発表「都道府県別人口」より）

久米島町の人口は国勢調査によると、1990年（H2）までは1万人台を維持していましたが、1995年（H7）に1万人を割り、その後は1年間に100人近いペースで減少しています。

▶久米島の人口の推移と予測



（実数：総務省 1985年～2010年 国勢調査及び人口推計より / 予測：国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計より）

年齢構造の推移をみると、少子高齢化が進んでおり、2015年（H27）1月時点で65歳以上が占める割合は26.3%と県平均19.0%を大幅に上回っています。

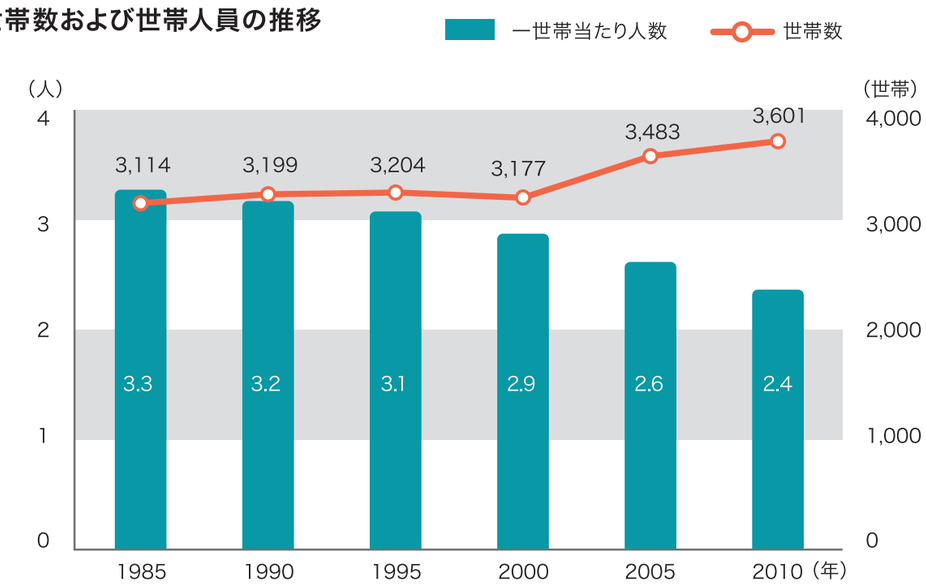
▶久米島町の人口と年代別割合（高齢化比率）

	2005年	%	2010年	%	2015年	%
0～6歳	700人	7.5	610人	7.0	568人	6.9
7～15歳	984人	10.8	868人	10.0	738人	9.0
16～18歳	382人	4.1	292人	3.4	267人	3.3
19～39歳	2,003人	21.5	1,804人	20.8	1,615人	19.8
40～64歳	3,111人	33.4	2,954人	34.0	2,834人	34.7
65～74歳	850人	9.1	790人	9.0	854人	10.6
75歳以上	1,269人	13.6	1,368人	15.8	1,282人	15.7
総数	9,299人	100.0	8,686人	100.0	8,158人	100.0
（高齢化率）		**22.7%**		**24.8%**		**26.3%**

（久米島町住民基本台帳より作成）

さらに、年々核家族化が進んでおり、育児における家族・親族のサポート力の弱まりや、ひとり暮らしの高齢者の生活支援や介護など、さまざまな社会問題につながっています。

▶世帯数および世帯人員の推移

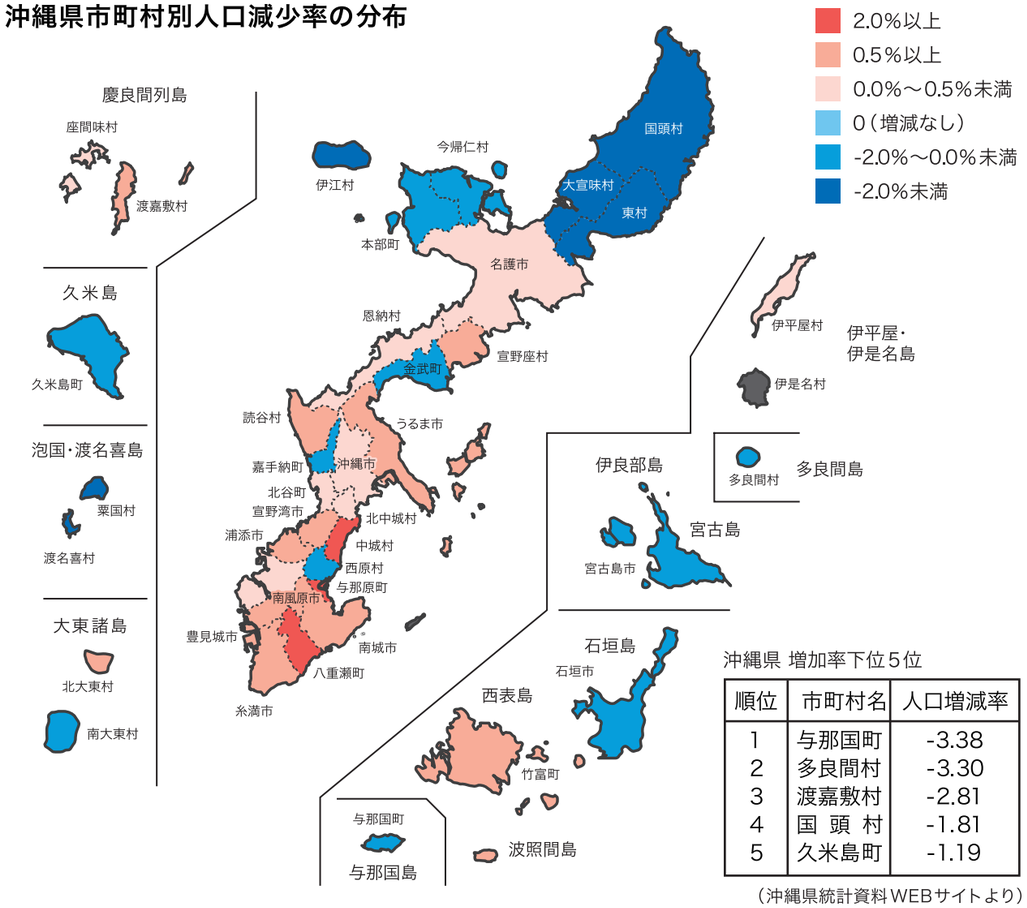


（資料：総務省 1995年～2010年 国勢調査報告書を基に作成）

このまま何も対策をせずにいると、2030年（H42）には島の人口は6,694人に。2040年（H52）には5,832人にまで減り、65歳以上の人口割合は42.2％になると予測される。

日本創成会議・人口減少問題検討分科会が2014年（H26）5月に発表した、人口再生産力に着目した人口推計に基づく、いわゆる**「消滅可能性都市」**。
2040年（H52）の時点で20～39歳の女性人口が半減するといわれる全国896市町村の中に、久米島も入っています。

▶沖縄県市町村別人口減少率の分布



沖縄県 増加率下位５位

順位	市町村名	人口増減率
1	与那国町	-3.38
2	多良間村	-3.30
3	渡嘉敷村	-2.81
4	国　頭　村	-1.81
5	久米島町	-1.19

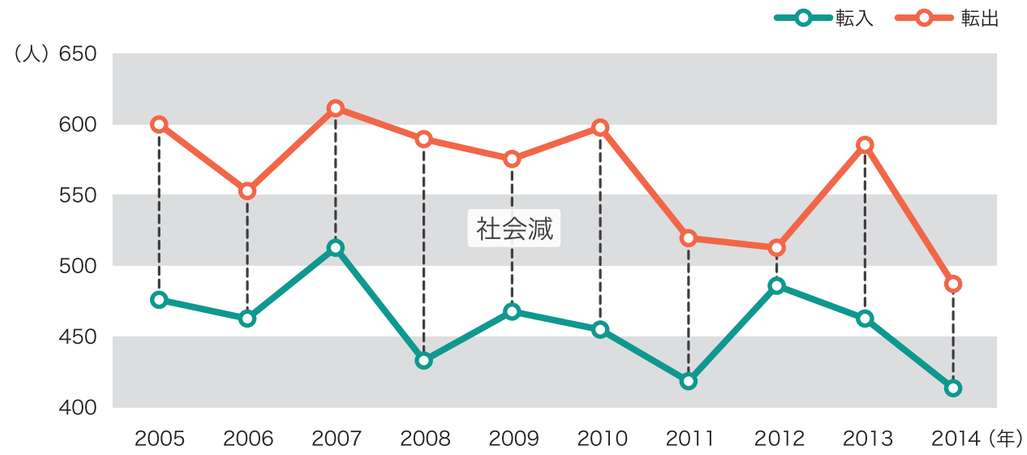
（沖縄県統計資料WEBサイトより）

合計特殊出生率2.31で全国2位(※)を誇る久米島町だが、仕事や進学等、何らかの理由で「島を出ることを選択する」人が多いこと、またUターン、Iターンなどの転入者数がそれを補う数に達していないこと＝「社会減」が、人口減少の大きな要因となっている。

※2014年2月厚生労働省発表「2008～2012年 市町村別合計特殊出生率」より

2014年（H26）4月から2015年（H27）年3月までの1年間の人口減少数は117人。
その内訳は、出生数と死亡数を比べた「自然減」が43人。死亡数の中には近年、脳卒中、心筋梗塞など生活習慣病に起因する突然死が増えており「不健康による死」が新たな人口減少の一因となりつつあります。一方で、転入と転出を比べた「社会減」は74人で、自然減よりも大幅に多く、人口減少の大きな要因となっていることがわかります。

▶転入と転出の比較



（久米島町民基本台帳年報を基に作成）

住民アンケートの結果を見ると、「ずっと住み続けたいが、将来的に他へ移ることも視野に入れている」と回答した人が全体の3割を超え、今後、仕事や進学、医療に対する不安などのために「島外に出ることを選択する」可能性のある人が多くいることがわかります。

安心して暮らし続けられる島。Iターン、Uターン希望者に選ばれる島。
『内を充たし、外からいざなう』ここに向けた早急な対策が必要です。